

## 実践団体情報

記入日	西暦 2022 年 1 月 20 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	京都市立塔南高等学校
代表者名	(代表)校長 小野恭裕 (担当)教諭 伊藤雅人
プラン全体のタイトル	防災ボランティアリーダーの育成 ー地域とつながるリーダーを目指してー
電話番号	08030334327
メールアドレス	itomarize@gmail.com
実践団体の説明	京都市立塔南高等学校の有志団体であり、本活動は今年度で 3 年目である。 防災に関する理解、知見を深め、学内をはじめ地域社会の防災意識を向上させるために様々な活動を行っていく。
所属メンバー	生徒 30 名 教頭 中村和夫 生徒部長・統括 伊藤雅人 生徒部員 笠舞一騎 結城明香
活動地域	京都市南区塔南高等学校および周辺の自治体、小学校 龍谷大学深草キャンパス 人と未来防災センター 京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー など
活動開始時期・結成時期	2019 年 8 月
過去の活動履歴・受賞歴	熊本県益城町訪問およびボランティア(2019 年度)、兵庫県広域防災センター研修(2020 年度)

プラン全体の概要	本校高校生より有志を募り、防災に関わる様々な研修、体験、交流を通して、防災に関する知見を深め、主体性を持って本校の防災教育の主軸を担っていくとともに、地域の住民、児童に対しても防災の重要性を発信し、対話と協働を通して地域防災活動を担う人材を育成していく。
----------	---

## プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	1年生有志募集 ミーティング①	2, 3年の活動紹介準備	活動紹介、説明会
5月	石原ゼミと打ち合わせ ミーティング②	石原ゼミ交流準備	HUG 実施
6月	京大宇治川オープンラボ ラトリー研修調整 ミーティング③	防災マップ、塔南 HUG 作り (ここから2月まで)	龍谷大学石原ゼミ交流①
7月	ミーティング④	石原ゼミ交流準備	龍谷大学石原ゼミ交流②
8月	唐橋自治区防災訓練打ち 合わせ	防災教育チャレンジプラン 中間発表準備	京大宇治川オープンラボラト リー研修
9月	祥栄小学校避難所設営訓 練打ち合わせ ミーティング⑤	防災教育チャレンジプラン 中間発表準備	学校説明会活動発表 防災教育チャレンジプラン中 間発表
10月	石原ゼミと打ち合わせ ミーティング⑥	石原ゼミ交流準備	龍谷大学石原ゼミ交流③
11月	ミーティング⑦ ミーティング⑧	石原ゼミ交流準備	祥栄小学校避難所設営訓練 龍谷大学石原ゼミ交流④
12月	ミーティング⑨ ミーティング⑩	石原ゼミ交流準備 防災教育チャレンジプラン 本発表準備 学校説明会②活動発表準備	人と防災未来センター研修 龍谷大学石原ゼミ交流⑤ 学校説明会②活動発表
1月	ミーティング⑪	クイズパネル作成 防災教育チャレンジプラン 本発表準備	クイズパネル展示
2月	ミーティング⑫ 防災 DVD 打ち合わせ		防災教育チャレンジプラン本 発表
3月	次年度計画立案 ミーティング⑬		防災 MAP、塔南 HUG 完成

プラン全体の反省点・課題・感想	ボランティアリーダーの生徒のモチベーションは非常に高く、参加生徒全員が前向きに学び、防災に関わろうとしていた。ただ、コロナ禍の状況もあり、「企画し、実践する」という部分の主体性はなかなか高められなかった。また、文化祭が縮小されたこともあり、他の生徒に還元する場をなかなか作ることができなかった。
今後の活動予定	次年度はコロナ禍の状況も鑑みながら、今年度の取組を継承しつつ、被災地研修や学校交流などを積極的におこなっていくとともに、生徒が企画立案し、実践できる素地を作っていきたい。

## 実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2022年1月21日(2021年度のチャレンジプラン)
実践団体名	京都市立塔南高等学校
実践番号	1
タイトル	防災ボランティアリーダーの育成 —地域とつながるリーダーを目指して—
実践担当者のお名前	伊藤雅人

実践にかかった金額	30万円未満
実践の準備にかかった時間	20時間
実践活動を実施した日時	西暦2021年4月26日～西暦2022年3月18日
実践の所要時間	50時間
実践の運営側で動いた人の人数	34人
防災教育の対象者の属性	小学生(高学年)・高校生・大学生 教職員 地域住民・社会人
防災教育の対象者の人数	約400人
実践を行った都道府県と市区町村	京都府京都市 他
実践を行った具体的な場所	京都市立塔南高等学校 京都市立祥栄小学校 唐橋公民館 龍谷大学深草キャンパス 人と防災未来センターなど
★実践に必要な特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	龍谷大学政策学部 石原 凌河先生およびゼミ生の方々 京都南区役所 京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー など

達成目標	本校を地域防災の拠点にするため、防災の知識を持ち、自ら考え、判断でき、主体性を持って本校と本校周辺地域の防災に寄与することができる生徒を恒常的に育てるシステムを作る。	
どの力を身につけようとしていましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法	<p>(行った順に並べています)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 昨年の活動を紹介し、1年生有志の募集を行った。</li><li>・ 石原先生と打ち合わせした上で、HUGを本校で行った。実際に避難者が学校に来た際に考えなければならないことを整理した。</li><li>・ 防災MAPと本校版のHUG(とりあえず本校の敷地間取りを作成)作りに班をつくって着手した。(各班5人)</li><li>・ 龍谷大学石原ゼミとzoom上で交流した。石原先生の講義を聴き、互いの取り組み紹介、クロスロードなどを行った。</li><li>・ 龍谷大学深草キャンパスに訪問し、石原ゼミと交流した。ゼミ生とともにグループワークなどに取り組んだ。</li><li>・ 京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリーでの災害体験型研修を行った。</li><li>・ 中3生対象の学校説明会でこれまでの取り組みを発表、紹介した。</li><li>・ 龍谷大学政策学部石原ゼミ4回生の松下さん他3名が、学校に来て出前授業を行ってくれた。防災ピクトグラム作り、防災クイズ作り、阪神淡路大震災にかかわる授業など。</li><li>・ 祥栄小学校にて、自治体および南区役所との連携の下、マンホールトイレの設営など、避難所の設営訓練を行った。</li><li>・ 人と防災未来センターに、石原先生およびゼミ生と研修に行った。施設見学、センターに勤めておられた石原先生のフィールドワークおよび講義を受け、防災クイズを作成した。</li><li>・ 中2生対象の学校説明会で、これまでの取り組みを発表、紹介した。</li><li>・ 本校の生徒が見て楽しみ、興味を持つことが出来るクイズパネルを作成し、展示した。</li><li>・ 地域住民と小学校高学年に見せる防災DVDの内容を打ち合わせ、作成した。</li><li>・ 次年度の取り組みについて話し合い、計画を立案した。</li></ul>
---------	---

得られた成果	<p>本校が防災に真剣に取り組もうと動き出したのは2019年からである。全くの一からのスタートであったため、生徒だけでなく教員が「防災とはどういうことか」を理解するところから始めなければならなかった。今年度防災教育チャレンジプランに参加して、これまでよりも様々な取り組みをしていく中で、龍谷大学石原先生の知見をお貸しただけしたのは非常に大きかった。大学生の学びを間近で見ることも含めて、「防災とはどういうことか」ということを理解するのに非常に役に立ったと思う。防災教育チャレンジプランのおかげで例年になく様々な取り組みを、たくさんの人の力を借りて行うことが出来た。完璧に自律し、完全に防災のことについて任せられる、というまでは行かないが、この一年間を通して、生徒達はある程度の知識と判断力、主体性が身につけられたと思う。今後は生徒がより主体的になり、自主的に防災活動を立案し、取り組めるような環境作り、地盤作りに一層努めていきたい。</p>	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	<p>一から防災について始めていく学校は、有識者の方と相談しながら、取り組み内容を作っていくべきだと思った。そういう意味でも防災チャレンジプランのオンライン交流会は非常にありがたかった。また、コロナ禍の中、他地域への訪問ができない、制作物の進捗がはかどらない、などの問題には見舞われた。できることを出来る範囲で少しずつ行っていく、長い時間をかけて「本校の防災」を創っていくべきだと思った。</p>	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	龍谷大学政策学部 准教授 石原凌河先生およびゼミ生のみなさん
関係者の説明	防災を専門に学んでいる大学のゼミ
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	本校生徒
伝えたい内容	防災の意識を持つことの大切さ
伝えたい相手	本校防災ボランティアリーダー
伝えたい内容	防災の意識を本校生徒及び地域に伝えていくことの大切さ
伝えたい相手	近隣の小学生および地域住民
伝えたい内容	本校と防災を通してつながって行きたい